

本物になるために 自分自身を高めていく。

特集・九州



鹿児島県

PROFILE
有限会社
ヒューマンケアドリーム
鍼灸・整骨院隼人オルタナ

院長 柔道整復師

柳田裕哉 (やなぎた ひろなり) 先生

福岡柔道整復専門学校卒 柔道整復師
スポーツトレーナーとしても現場に多く足を
運び、治療院と両面で選手をサポートする
ことで、選手の支えとなることを目指す。
鹿児島県出身 30歳



2月22日(金)午後、宮崎県小林市での取材を終え、いよいよ最終目的地の鹿児島入り。電車を乗り継いで移動では2時間近くかかるところを、今回も前の取材先の先生に車で送っていただいた。東九州自動車道隼人東インターを降り、国道を北上し隼人町の中心地に向かう。しばらく進んだ国道沿いに、立派な看板と大きな治療院の全景が見えてきた。「鍼灸・整骨院 隼人オルタナ」さんだ。もともとドラッグストアだったという建物だけあってその存在感は圧巻。『鹿児島県内随一の広さ』というもうなづける。

鹿児島県本土の中心部に位置する霧島市は、人口約13万人で県内で2番目に人口が多い街。隼人工業高校、鹿児島工業高専をはじめ、多くの学校が点在し、若年層が多い地域としても注目される街だ。この地に開業し4年目の鍼灸・整骨院隼人オルタナ院長の柳田裕哉先生にお話を伺った。

現在の来院傾向は圧倒的に若者層が多く、中でも学生の来院が全体の2割を超えるという。「スポーツしている子供が多いので、『痛みが取れました』じゃダメなんです。それから先を診てあげて、『ちゃんと動けるようになった』までいかない」と本当の意味での治療ではないと考えています。」と柳田先生は話す。広い院内は大きく二分され、治療スペースとエクササイズ向けのスペースがある。治療ベッドが据え付けられている。最近話題になっている「レッドコード」だが、経営母体である(有)ヒューマンケアドリーム代表取締役の古田氏が理学療法士だったこともあってオルタナグループでは早くからこのレッドコードをほとんどの院で導入している。「こちら(治療スペース)では、患者さんの症状、治療の段階に合わせて活用しています。」一方で、エクササイズエリアにもレッドコードが用意されていて、リハビリ的な道具として利用しているという。

高校まで野球をやっていた柳田先生は肩を壊し、当時通っていた接骨院の先生がその後、福岡柔整(現在の福岡医療専門学校)の教師になったのがきっかけで柔整師を目指した。「スポーツトレーナーになりたいという目標の中で、鍼灸、理学療法士、大学進学してATなど選択肢としてはいろいろありましたが、お世話になった先生の『柔道整復師どろだ』という言葉でここまで来ました。」21歳で免許を取得し、福岡の治療院で2年間の臨床経験を経て地元鹿児島に戻った。もともとトレーナー志向だった柳田先生は「だいたい土日はトレーナーとして現場に出ています。なかなか一人で開業しているという動きできませんから。今はとてもいい勉強をさせていただいています。」と元気に話す。

『整骨院は舞台』『役者であれ』と教えられたことがありますが。「患者さんを楽しませることも仕事の一つ。怪我をして暗くなってきたら来院する、そこを笑わせてあげるのも凄く重要だよ」と。患者さん自身の事をしっかりと患者目線で考え、心配りをし、そして治療しなさい。そんな意味だと捉えて大切にしています。」

『根本から原因を追究して治していく、色んな角度から治療を進める』企業理念を实践する若き治療家の将来が楽しみです。



鍼灸・整骨院隼人オルタナ

〒899-5117
鹿児島県霧島市隼人町見次 508-1
Tel&Fax:0995-42-8020
<http://www.hcd.co.jp>
[ブログ]
<http://ameblo.jp/seikotsuin-alterna/>
診察時間
月～金 9:00～12:00 14:00～19:30
土曜日 9:00～17:00
休診日 日曜・祝祭日